

株主各位

京都市南区上鳥羽上調子町5番地
T O W A 株 式 会 社
代 表 取 締 役 社 長 三浦宗男

第47回定時株主総会における株主さまからの事前質問に対する回答

第47回定時株主総会では、その目的事項につきまして、株主さまより事前質問を6問お受けしました。お寄せいただいたご質問につきまして、下記のとおり回答させていただきます。

記

	ご質問内容	回答内容
1	第1号議案の取締役は、すべて男性です。役員の性的多様性についてどのような方針をお持ちですか。また、女性社員の活躍状況を教えてください。	当社では、役員の選任にあたっては、性別に関わらず、製品や市場に精通し、主要業務で成果を上げた者や、豊富な経験と専門知識を持つ者を選任しています。 また、女性社員の活躍を推進するため、女性管理職比率の目標値を設定し、公開しています。実際に女性社員が管理職として活躍しており、当社の成長に貢献しています。 今後も、性的多様性を尊重し、全ての社員が能力を発揮できる環境を整えてまいります。
2	矢野氏の選任について。なぜ経営の経験者ではなく、元プロ野球選手を社外取締役候補者として選んだのでしょうか。社外取締役としての役割は何か教えてください。	取締役の職務執行の主たるものは会社の経営です。一般的に経営とはヒト、モノ、カネといった経営の主たる3要素を総合的に用いて利益を獲得することです。現在、TOWAは技術・資金面においては安定してきており、人財育成が最重要課題と認識しております。ヒトをどう育て、会社という組織を組み立て、長期的に利益を生みながら成長していくかが経営を行う上での一つの大きな課題になっております。この課題解決に向けて、矢野氏を選任しましたが、主たる理由は以下の2点です。 1. 人財育成の実績 若手育成など球団監督としてのご経験や、組織活性化・リーダーシップ、チームビルディングなどをテーマとした全国でのご講演活動の内容から、TOWAアカデミーを通じてこれからのTOWAを支える人財育成に貢献して頂けるものと期待しております。 2. 組織構築の実績 野球も会社も組織で活動を行う点では同じであると考えています。「捕手目線のリーダー論」など経営学の組織論に関する著書も多数あり、論理的な組織力向上に向け我々とは違った目線で助言いただきたいと考えております。

	ご質問内容	回答内容
3	2028年度迄の株主還元目標としてROE13%以上、配当性向20%以上を目標としているが、2024年度に配当性向はやや下回っているが、ほぼ目標を達成している。目標を達成しているのだから現在の目標は目標にならず、2028年度迄の目標は上方修正するべきと思いますが、如何でしょうか？ 配当性向は30%以上を希望します。	当社は「安定・継続配当」を基本方針としており、業績の変動に左右されず、株主の皆さまに持続的な利益還元を行うことを重視しています。そのため、配当性向を一律に高く設定するのではなく、事業環境や投資計画との整合性を見ながら、柔軟に対応できる水準として「20%以上」を掲げています。 現在は成長投資フェーズにあり、国内外での設備投資やDX推進、M&Aなど、将来の収益力を高めるための資金需要が大きくなっています。これらの投資を着実に実行することで、中長期的な企業価値の向上と、結果としての株主還元の拡大を目指してまいります。
4	株主還元について質問です。 直近では業績が好調にも関わらず、自社株買いや増配が実施されていません。株価も大きく下がっており、株価対策についてどう考えているのか教えてほしい。	当社の株価は、半導体業界全体の動向や市場の変動に影響を受けて下落していると考えております。特に、米国の対中半導体規制の強化や世界的な経済不安が影響を及ぼしております。当社は引き続き技術革新と製品の品質向上に努めており、長期的な成長を見据えております。今後の業績拡大に向けた取り組みを積極的に行うとともに、企業価値と株主価値の向上に努めてまいります。 なお、2025年3月期の期末配当金につきましては、株式の3分割実施前の基準に換算して1株当たり40円から60円への増配を実施いたしております。
5	先端半導体に使用されるHBMの需要は貴社の業績にどの程度のインパクトを与えていますか。 またそれを踏まえ、現時点で2026年度(来期)の業績を2025年度(今期)と比較してどのように見えていますか。	顧客との関係上、特定の製品に関するコメントは差し控えさせていただきますが、HBMを含む先端半導体向けに使用可能な製品(コンプレッション装置)の売上についてご説明いたします。 2024年度の売上は36億円でしたが、2025年度(今期)は75億円と前期の約2倍の売上を計画しております。さらに2026年度(来期)の売上につきましては、技術の進化および市場の需要の高まりに伴い、先端半導体の生産が一層拡大することが見込まれるため、2025年度を上回る需要を想定しております。

	ご質問内容	回答内容
6	業績見通しを修正された考え方についてお教え願いますでしょうか？ 前期売上見通し600億円は、結果的に約535億円で留まってしまいましたが、要因は生成AI向けの売上見込みの伸びが、期ずれで想定を下回ってしまった結果なのか？ 過大な予測見込み（堅調に推移とある）であったのでしょうか？ 今期の売上見通しも560億円の設定であり、2025年3月期の600億円で遠く及びませんが、今後において、急回復的な望みは皆無とお考えなのでしょうか？	業績見通しの修正は、スマートフォンやパソコンの需要低迷による民生品向け半導体やメモリ半導体の投資回復の遅れ、中国経済の不透明感、アメリカの政策動向などの影響により顧客の投資意欲が低下したためです。当初想定していた市場回復のタイミングが後ろ倒しとなったことから、期中で計画を見直しました。 今期の売上見通し 560 億円は、2025 年 5 月 9 日の発表時点で得られる情報を踏まえた現実的な予測です。上期は厳しい状況になると見込んでおり、2025 年 3 月期の当初売上計画 600 億円を下回る見通しです。一方で、年間の受注は前年を上回ると予想しており、来期にはさらなる売上拡大を期待しております。

以上